

01

概要—かしわらっ子はぐくみテスト

かしわらっ子はぐくみテスト

▶▶▶ 1

「趣旨」

平成28年度、柏原市は、市内すべての小学生を対象に、「かしわらっ子はぐくみテスト」を実施しました。本市では、児童の学力や学習状況を経年把握・分析し、学力向上や生活習慣等の質の向上につなげます。

本調査の結果は児童の学力の一部を示しているものですが、分析結果から、成果と課題を明確にし、本市の教育力の充実に向けて、「確かな学力と自ら学ぶ力」を学校・家庭・地域が、それぞれ適切な役割分担を果たし、相互に連携して育てていくことが重要と考えます。

▶▶▶ 2

「調査目的」

【調査目的】

- 学習指導要領に示された学習内容に対する児童の学習到達・定着度を調査し、その結果から学校の取組みについての検証を行い、教育活動の工夫改善を図ります。
- 本市の教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。

【調査日】

平成29年1月11日（月） 12日（火）のいずれか1日

【調査内容】

<教科に関する調査>

国語：主として知識と活用に関する問題

算数：主として知識と活用に関する問題

<質問紙調査>

生活習慣や学習環境等に関する調査(児童生徒質問紙調査)

▶▶ 3

【調査対象】 市内 11 小学校 小学1年生～6年生 3,328名

「平均正答率の状況」

(単位 %)

*1
全国正答率とは

委託業者が、本調査を同じように受けている他府県の結果を算出したものです。

*2
標準スコアとは

全国正答率を50とした時の換算値。

小学校	教科	今年度調査結果	全国正答率	標準スコア
1学年	国語	73.5	75.4	49.0
2学年	国語	78.9	80.1	49.1
3学年	国語	64.0	66.3	48.8
4学年	国語	65.2	68.0	48.5
5学年	国語	68.5	72.2	47.8
6学年	国語	73.5	75.3	48.9
1学年	算数	79.5	81.8	48.6
2学年	算数	65.3	67.1	49.0
3学年	算数	67.2	67.1	50.0
4学年	算数	61.3	63.7	48.9
5学年	算数	57.7	60.2	48.7
6学年	算数	65.0	66.5	49.2

02

概要—かしわらっ子はぐくみテスト

国語科

▶▶▶ 1

「概要」

平成28年度、柏原市内小学校の国語科においては、全国とほぼ同程度です。

▶▶▶ 2

「成果と課題」

言語についての知識・理解・技能については、ほとどの学年も全国並みであり、漢字を読んだり、書いたりすることには成果が表れています。

文章を書く力については、全学年で全国正答率を下回っており、柏原市の大きな課題であると言えます。

国語への意欲・関心・態度も全国を下回っており、学習意欲と学力の相関が考えられ、改善が必要です。

▶▶▶ 3

「設問例から見てくること」

例えば、4年生（書く能力を問う問題）

この問題（※3）では、

- ① 指定された長さで文章を書くことができる。
 - ② 2段落構成で文章を書くことができる。
 - ③ 目的や必要に応じて、文章に書くことを明確に示すことができる。
- などの力が必要です。

7

南小学校では、持きゆう走大会が近づいてい
 す。そこで、体育係は、長いきよりでも楽に走れ
 ることを、担任の小川先生に聞き、クラスのみん
 なに向けた文章を書くことになりました。次の
 「取材メモ」を読んで、下の問題に答えましょ
 う。

取材メモ

○持きゆう走で楽に走るには

——小川先生のお話

三つのこと

- ① はじめはゆっくり走る。
- ② 体の力をめく。
- ③ こきゆうを一定にする。

→

体力を後半にのこすと、
 長いきよりでも楽に走れるようになる。

体育係は、上の「取材メモ」をもとに、文章を書くこ
 とにしました。あなたが体育係になったとして、長いきよ
 りでも楽に走れることを伝える文章を、次の〈注意する
 点〉を守って書きましょ

〈注意する点〉

- ① 二つの段落に分けて書きましょ
- ② 一つめの段落には、「取材メモ」をもとに、「だれ
 に」、「どんな」話を聞いたのかを書きましょ
- ③ 二つめの段落には、この取材をした体育係として、
 持きゆう走大会に向けて、クラスのみんなによび
 かける言葉を書きましょ
- ④ 七行以上、九行以内（二二一字以上、一八〇字以
 内）で書きましょ

* 3

4年生国語科問題

特に全国正答率を大幅に
 下回った問題を例示した
 ものです。

○考察

誤答では、2段落構成にはなっているが、段落頭の1文字目を空けていない、指定された長さで書いていないといった回答がありました。特に、一文ごとに改行し、段落構成そのものができていない回答が多く見られました。

2段落構成で文章を書く問題が3年生以上でありました。どの学年も全国の正答率を下回っています。日頃から、全学年で継続的に、ノートやワークシートを中心に学習の記録、読書感想文、日記など数多くの場面で書く経験を積むことや、原稿用紙などに段落相互の関係に注意して文章を構成することが大切です。

また、日頃の授業の中で、学習している文章が何の目的で書かれているのかを意識して読むことも必要です。

さらに、作文の無回答の児童が3割近くもいることから、回答時間が無くなる等問題全体的の見直しを持つことも必要です。

▶▶▶ 4

「国語科学力向上のために」

「書く力」については、大阪府全体の課題でもありますが、今年度のはぐくみテストでは、柏原市の小学生全学年の課題であることが明らかになりました。「書く力」をつけるために、次のようなことに取り組んでいきます。

1. 学校生活のあらゆる場面で「書く」機会を取り入れた活動を行う。

(例)

- ・ 社会科…図表やグラフの読み取り（何についてのグラフなのか、グラフの情報は何を表しているのかなどを根拠に）歴史的出来事がなぜ起こったのかなどを文章でまとめる。
- ・ 理科…実験結果について結果の根拠は、どこにあるのかグラ

フや図表を用いて説明する。

2. 学びあいの中で、自分の考えを明確にする活動を多く取り入れる。

目的に沿って、互いの立場や意図をはっきりさせ、考えの違いを認め合い、多くの考えを関係付けながら、自分の考えを書く活動を取り入れていきます。

(例) 学びあいの中で

- ・情報を「カード」に書き、整理・分析する。
- ・メリット・デメリットの視点で整理する。
- ・図などを使って、共通点や相違点を明らかにする。
- ・他者の考えとの共通点や相違点を明確にして自分の考えを書く。

3. 家庭学習において、書く課題を多く取り入れる。

書くことをいとわない児童を育てるために、書くことを習慣化します。

(例)

- ・視写
- ・聴写
- ・日記
- ・感想文
- ・意見文
- ・新聞

03

概要—かしわらっ子はぐくみテスト

算数科

▶▶▶ 1

「概要」

平成28年度、柏原市内小学校の算数科においては、全国正答率とほぼ同程度です。

▶▶▶ 2

「成果と課題」

「基礎」的な内容についての正答率は、全国並みであり、「数と計算」には成果が表れています。

「活用」においては、全国正答率を下回り、特に4年生以上の高学年に課題がみられます。

また、算数への意欲・関心・態度も全国を下回っており、学習意欲と学力の相関が考えられ、改善が必要です。

▶▶▶ 3

「設問例から見えてくること」

2年生（理由を明確にして説明する問題）

この問題（※4）では、数直線の仕組みを理解して、

① 数直線から事実を読み取る。

② 理由を明確にして説明する。

などの力が必要です。

14 あきさんとりなさんは、数の線の^{さん}↑のところの数について話し合っています。

- (1) ㊸にあてはまる数が900のとき、あきさんはつぎのようにいいました。□にあてはまる数を書きましょう。



あきと



↑のところの数は□になります。
そのわけは、1めもりの大きさが10だからです。



- (2) ㊸にあてはまる数が990のとき、りなさんはつぎのようにいいました。あきさんの考え方をもとにして、りなさんの考え方のアとイにあてはまる数とことばを書きましょう。



りな



↑のところの数はア□になります。
そのわけは、イ□だからです。



*4

2年生算数教科問題

特に全国正答率を大幅に下回った問題を例示したものです。

○考察

誤答では、①は正答しているが、②は正しく説明できない児童が9.3%、両方とも解答ができないのが64.6%と全国正答率を下回っています。

日頃から問題場面を読み取らせ、その方法や理由を説明させることや、話し合いの場面を多く取り入れ、考えを交流することが大切です。

日頃の授業の中で、文章題から立式させるだけでなく、式からお話づくりや問題づくりをする活動を取り入れることも必要です。

▶▶ 4

「算数科学力向上のために」

「思考力・判断力」については、算数の授業で、用いた式や答えが表す内容を日常の場面に戻って考察する経験を豊かにすることが大切です。今年度のはぐくみテストでは、柏原市の児童全学年で「記述」が課題であることが明らかになりました。「記述する力」をつけるために、次のようなことに取り組んでいきます。

1. 全学年で問題場面と「日常生活」のつながりを意識した授業を行う。

日常生活の問題解決のために、資料を集めて分類整理し表やグラフに表したり、日常生活の中から式の意味や数値の意味を解釈する授業をおこなっていきます。

2. 学びあいの中で友達と交流しながら、自分の考えを書く活動を取り入れる。

一人学びの時間を大切にし、自力解決する力を育てるのみならず、他者との協働により答えを見出したり、考えを生み出したりする体験を積みみます。

また、よりよい解決方法を探り、考えをまとめる活動を行います。

04

概要—かしわらっ子はぐくみテスト

学習・生活状況

柏原の児童の生活は、肯定的な回答が多くみられ、概ね良好な状況です。

▶▶▶ 1

「概要」

自己認識や社会性・規範意識、生活習慣などの「生活状況」から、学習規律や学習習慣などの「学習状況」などの回答に、「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」など、主に4つの選択肢で回答しました。平成28年度、柏原市内小学校の児童の状況においては、肯定的な回答が多くみられます。しかし、「規範意識」や「生活習慣」などには課題も表れています。

▶▶▶ 2

「成果と課題」

項目①【家族／友だち／先生のささえ】

児童の多くは、友だちや家族・教職員にささえられて、学校生活を送っています。中でも大切なのは、「友だち・先生」などの「人間関係」です。柏原の児童たちは、ほぼ全学年で、「友だちのささえ」が全国平均値を上回っています。それをささえる「先生」や「家族」の役割も大きく、全国平均値を上回っている学年が多く、今後とも、児童の成長に欠かせない、「学校と家庭の協力」が不可欠です。

さらに、家族や先生に相談できる割合を伸ばしていく必要があります。

項目②【成功体験と自信】

柏原の児童たちは、どの学年も自分自身の「努力」を惜しんでいません。半数以上の学年で全国平均値より高い値を示しております。今後は、その努力に応えることができるよう、学校と家庭が協力して、「学力」や「豊かな体験」を身につけさせていく必要があります。

項目③【規範意識】

柏原の児童たちは、社会性・規範意識が課題です。近所へのあいさつは、全国平均値より全学年で肯定率が低いです。学校のあいさつ運動・ボランティア活動・健全育成会などとおして、地域・社会とのつながりを改善していくことが重要と考えます。

学校での規範意識も全国に比べて低い傾向にあります。今後とも「道徳」や「特別活動」などの学習をとおして、社会的なルールを守る指導が必要です。

項目④【対人ストレス・いじめのサイン】

いじめの不安を抱えている児童の割合も全国にくらべて、ほぼ少なくなってきました。(※5)

しかし、いやなことをされることが、「今もある」と回答している児童や「ネットやケータイサイトに書き込みをされた経験がある」という質問に対して「今もある」という児童もおり、注視が必要です。各学校での「いじめ撲滅」の取組みだけでなく、家庭・地域で見守っていく必要もあります。

項目⑤【生活習慣／家庭学習習慣】

「ケータイ」に関することは、柏原市の大きな課題です。高学年になると、毎日ひんぱんに利用する児童が全国よりも倍近く存在します。またそれに比例するように、家庭での学習に関して、「ほとんどしない」児童が全国に比べて3倍近い数字で表れています。今後、家庭だけでの問題として捉えるので

*5

肯定率とは

選択肢の「そう思う」と「少しそう思う」の割合を単純に合計したものを

「いじめのサイン」や「対人ストレス」などは、良好な回答を合計したものを肯定率としています。

05

概要—かしわらっ子はぐくみテスト

まとめ

柏原の児童の「確かな学力と自ら学ぶ力」の充実のため、学校・家庭・地域が、それぞれ適切な役割分担を果たし、相互に連携して育てていくことが重要と考えます。

▶▶ 1

「概要」

学力の育成を図っていくためには、学校及び家庭の教育力の向上が必要です。また、児童たちの生活基盤である地域の教育力向上も欠かせません。その上で三者が連携しながら組織的かつ継続的に取り組むことで、「生きる力」の知の側面である「確かな学力」の育成が可能となります。

柏原市では平成28年度より学力向上に向けて、「すべての子どもたちに確かな学力を！！」を目標に、これまでの取組の実践をさらに充実・発展させていきます。「オール柏原！！」全市を挙げて、学校・家庭・地域の強い連携のもと、目標達成をめざします。

▶▶ 2

「学校が行うこと」

【「確かな学力」の育成を図る授業づくり】

学習指導要領では、「生きる力」の知の側面として「確かな学力」育成のための取組の充実が求められています。その実現のためには、「基礎的・基本的な知識・技能」を確実に習得させることに加えて、「思考力・判断力・表現力」や「主体的な

学習態度」を育成することが必要です。これらの力・態度を育むには、「書く力」の育成が必要不可欠であると考えます。また、グローバル化する社会の要請として、母語・外国語ともに「書く力」による自己表現力を高める授業づくりを行います。

【学びの時間の保障（個に応じた指導の充実）】

学習内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育を一層充実させるためには、そのための学びの時間を保障し、「個に応じた指導」を充実させることが大切です。

一人ひとりの学習状況の把握・分析を踏まえ、授業内での個別指導や支援とともに、学校・学年体制による「補完的な指導」を実現させる学びの時間の確保に努めます。

▶▶ 3

「教育委員会が行うこと」

【系統性のある学び（幼小中一貫教育）の充実】

市内各中学校区において11年間を見通した指導の系統性をはかり、校種間の段差をゆるやかにするとともに、個に応じたきめ細やかな学習指導、生徒指導、進路指導等を行うため教職員の校種間の連携をより一層推進します。

また、家庭・地域・学校園等の連携・協働により、確かな学力、豊かな心、健やかな体、社会性の育成に努め、『かしわらっ子』はぐくみ憲章の「めざす子ども像」の実現をはかります。

【教育内容の充実】

児童・生徒の能動的な学習参加を促し、生涯を通じて学習する習慣の定着をめざしてまいります。そのために、民間教育産業や社会教育事業を活用し、学びの多様性を担保します。また、平成28年度から始めた小学校全児童を対象とした「かしわらっ子はぐくみテスト」を継続実施し、「確かな学力」の育成に向けて、学校や家庭と協力した取組みを進めます。

【学校司書の配置】

学力を下支えする読書活動につきましては、市立図書館との連携を進め、学校館司書を配置し、読み聞かせやブックトークを行っています。児童に読書の楽しさを感じさせることで、読書離れを改善していきます。

▶▶▶ 4

「家庭が行うこと」

学習内容の確実な定着を図り、主体的な学習態度を育成していくためには、授業だけではなく、家庭における学習も必要です。また、家庭学習を充実させることで、生涯にわたって学び続ける学習習慣の確立を図ることにもつながります。学校と家庭が連携し、学校と良好な関係を築き上げながら、家庭学習の習慣化を図ってください。

また、「ケータイ」などが与える潜在的影響も考慮し、使用するルールを決めるなど、児童にとって、大切なことは何なのかを今一度考えるようにしましょう。